

小中一貫教育Q&A

Q1 小中一貫教育を行うことによってどんなメリットがあるのですか。

A 現在、小学校の6年間と中学校の3年間で区切って、それぞれの教育が行われています。その中でも、小中一貫教育では、小学校の教員と中学校の教員が、「目指す子ども像」を設定・共有し、共通したねらいや指導方針のもと、9年間を見通した計画的・継続的な指導を行うことにより、子どもたちにより確かな学力と豊かな心を身に付けさせていきます。

また、小学校から中学校への段差がなくなり、小6～中1へと滑らかな移行をすることができるので、中学校入学時の学習や生活への不安感を軽減し、子どもたちがより安定した学校生活を送ることができます。

Q2 小中学校9年間を通して子どもたちにどんな力を育てていくのですか。

A これからの社会は国際化や情報化がますます進んでいきます。その中で生きる子どもたちには、豊かな人間関係を築くためのコミュニケーション能力や的確な判断力が必要とされます。また、本ブロックの子どもたちの実態から、互いに尊重し協調し合いながら、その中で自分を表現する力や社会性、実践力などを特に育てることが大切です。

これらの力を、小中学校9年間の教育活動の連続性を高めた各教科の学びや児童生徒のさまざまな交流・協働を通して育てていきます。

Q3 小中一貫教育の取組は、具体的にどのように進められているのですか。

A 小中学校9年間の一貫性のある教育を栃木市各中学校区（ブロック）で推進するために、小中学校全教職員の参画の下、各学校の学校教育目標を踏まえて、家庭・地域の意見を取り入れながら、「知・徳・体」の調和のとれた「目指す子ども像」を設定します。

そのうえで、各ブロックごとに特色ある小中一貫教育を推進できるよう、各学校の意見をもとにして実効性のある重点目標を設定します。さらに、推進組織を設置・活用して教育活動の重点化や特色ある教育課程の工夫改善を計画的に図っていきます。

また、学校運営協議会やとちぎ未来アシストネットなど、地域の方々の力をお借りしてさまざまな体験をしたり、専門的な話を聞いたりして、学びを深めていきます。